稿 KŌCHŪ 虫

沖縄本島における アマミクスベニカミキリの採集例

豊嶋亮司・滑田保生

アマミクスベニカミキリ *Pyrestes inaequalicollis* HAYASHI は，従来奄美大島特産種とされており沖縄本島からは未記録の種であったが，筆者らは1979年に沖縄本島北部の山地において下記のように本種を採集したので報告する。

1♂，沖縄県国頭村与那覇岳，14，Ⅵ，1978，滑田保生採集，

2♂♂，同　上，15，Ⅵ，1979，豊嶋亮司・滑田保生採集



採集地は与那覇岳の伐採斜面に突出した林道沿いの広場で，採集した3♂♂の他に数頭の個体が吹き上げられたのを目撃した。

沖縄本島北部は奄美大島ときわめて類似したカミキリ相を示し，現在までに確認されている共通種の他にもいくつかの種について共通分布が予想されており，本種も以前から沖縄本島における分布が推察されていた。

採集した個体は，奄美大島産の個体に比べ触角が太いこと，前胸背の点刻も若干あらいことなどの差異があるが，アマミクスベニカミキリと同定できるものであった。

末筆ながら発表にあたりご協力いただいた蟹江昇氏並びに写真撮影していただいた湯沢宣久氏にお礼申し上げる。

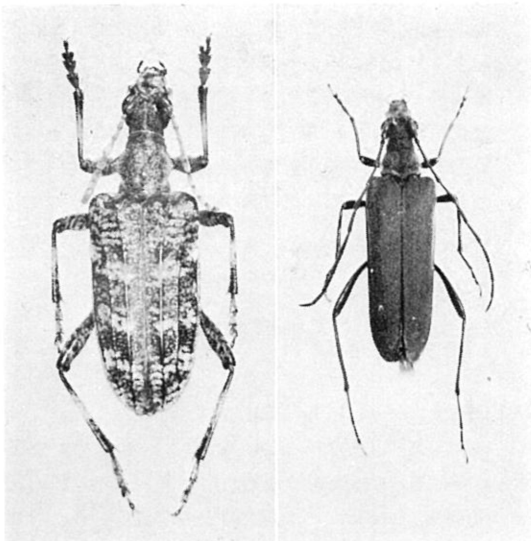
（豊嶋：〒462 名古屋市北区下飯田町4-11）
（滑田：〒771-16 徳島県阿波郡市場町平地222）

木曽御岳で採集したカミキリ6種

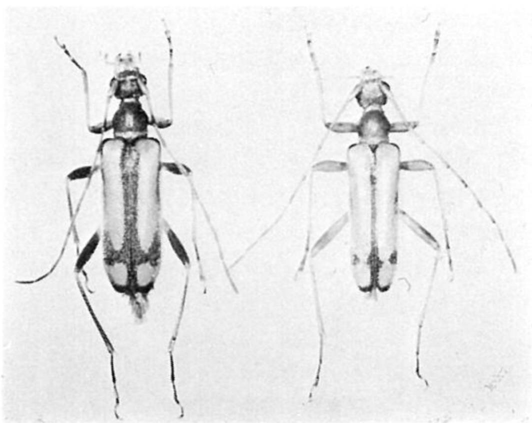
湯沢　宣久

1979年，筆者は長野県木曽郡御岳にて下記のようなカミキリムシを採集したので報告する。

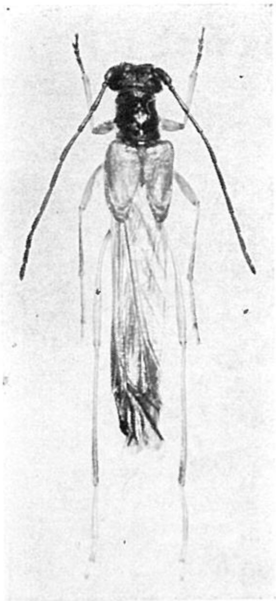
1. エゾハイイロハナカミキリ
   Rhagium heyrovskyi PODANY
   1♀，26，Ⅶ，1979
   トウヒの伐採木上にて採集。
2. クモマハナカミキリ
   Evodinus borealis (GYLLENHAL)
   1♂1♀，22，Ⅵ，1979
   ナナカマドの花上にて採集。
3. ミヤマヒメハナカミキリ
   Pidonia sylvicola KUBOKI
   2♂♂6♀♀，20，Ⅶ，1979
   ササの葉上にて採集。
4. フイリヒメハナカミキリ
   Pidonia signata MATSUSHITA



左：エゾハイイロハナ　　右：スミイロハナ



ミヤマヒメハナ（左：♀　右：♂）



1♂1♀，26，Ⅶ，1979
ササの葉上にて採集。

5. スミイロハナカミキリ
Nivellia extensa (GEBLER)
1♀，2，Ⅷ，1979
ショウマの花上にて採集。

6. カラフトホソコバネカミキリ
Necydalis sachalinensis MATSUMURA et TAMANUKI
1♀，2，Ⅷ，1979
ツガの衰弱木で，樹幹のコケ上にて採集。

（〒459 名古屋市緑区大高町門田19）

阿武隈山地のカミキリ2種

大桃定洋・新里達也・西山　明

筆者らはかねてより阿武隈山地の昆虫相調査を進めており，さきに興味ある分布を示す甲虫類（Coleoptera）について報告[1~4]してきた。今回，東北地方初記録でもあるクロサワヘリグロハナカミキリ *Eustrangalis anticereductus* HAYASHI が分布することを見出したので報告する。



6♂♂，福島県原町市横川赤根林道，2，Ⅵ，1979，大桃定洋・新里達也採集，2♀♀，同上，17，Ⅵ，1979，西山明採集

日陰のミズキの花上に飛来した個体，あるいは林間を飛行中の個体を採集した。本種は北海道から九州までの広い分布域を示すものの，その産地はきわめて局所的であり，本州における産地としては奥多摩，大菩薩，長野県下，南アルプスおよび山口県下が知られるだけであった。本記録は北関東地方から東北地方にかけての分布の空白を埋めたことになる。

なお，同地における注目すべき記録として，クロヒラタカミキリ *Rhopalopus signaticollis* SOLSKY の一異常型 ab. *abukumensis* OHMOMO et IKEDA が追加記録されたので併せて報告する。

1♂，原町市横川渓谷，3，Ⅵ，1979，西山明採集，3♂♂2♀♀，原町市横川赤根林道，平山洋人・吉川賢・条久仁雄採集，1♀，同上，17，Ⅵ，1979，大桃定洋採集

本異常型[3)]は前胸部のすべてが鮮やかな朱赤色を呈する個体で，その出現率は約13%〔同地で採集されたクロヒラタカミキリの個体数は60 exs.〕に達する。この値からすると，本型は安定な1つの遺伝型と考えられるので，これを f. *abukumensis* OHMOMO et IKEDA と改めたい。

本種のこのような型は上記以外の日本産（その多くは福島県南会津地方で採集されている）にはまったく見出されていないが，中国大陸においては非常に稀に出現することが GRESSITT[5)]によって指摘されている。なんらかの理由によって，阿武隈山地に生息する一群には，前胸部に朱赤色を発現させる遺伝形質が隔離的に保持されてきたものと考えられる。

最後に，採集にご協力いただいた条久仁雄，平山洋人および吉川賢の各氏に感謝する。

○参考文献

1) 大桃定洋(1976)：ELYTRA，**4**(2)，p.35.
2) 大桃定洋(1977)：ELYTRA，**5**(2)，p.44.
3) 大桃定洋・池田清彦(1978)：ELYTRA，**6**(2)，p.70.
4) 大桃定洋(1979)：おとしぶみ〔筑波大学昆虫談話会会誌〕，8，p.1.
5) GRESSITT (1951)：Longicornia，Vol. Ⅱ，Longicorn beetles of China，p.217.

（大桃：〒300-11 茨城県稲敷郡阿見町荒川沖953-502）
（新里：〒164 中野区中央5-27-13 静風荘105号）
（西山：〒311-41 水戸市大塚町1859-7）